

2020(令和2)年度事業報告書

自：2020(令和2)年4月1日 至：2021(令和3)年3月31日

(公益事業)

公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校20校で指導者11名、参加児童数544名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使っての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(16年間の合計716校24,589名)。富士フィルムイメージングシステムズ㈱の協力で行っている。

(2) 6歳以上の子どもとその家族を対象に「おやこ写真教室」を行った。コロナ禍により参加者数は限られ、3組6人が参加した。

(3) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に小澤太一、渋谷敦志会員を派遣する予定であったが、コロナ禍により一年順延となった。

この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを目的として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1) 「第45回2020JPS展」を開催した。

公募受付：2019年12月10日(火)～2020年1月15日(水) 作品審査：2月1日(土)

審査員：野町和嘉(審査員長)、熊切大輔、高砂淳二、水谷たかひと、伏見美雪(写真雑誌『アサヒカメラ』編集長)

共催：東京都写真美術館

後援：文化庁ほか

総展示数：488枚(公募251名428枚、会員作品30名49枚、ヤングアイ11校11枚)

応募総数：1,858名、5,764枚(一般：1,662名、5,358枚 18歳以下：196名、406枚)

入賞・入選者総数：251名、428枚

一般部門：214名、366枚(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選184名)

18歳以下部門：37名、62枚(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選27名)

各都道府県応募者数

北海道 51、青森 6、岩手 27、宮城 20、秋田 4、山形 7、福島 10、茨城 48、栃木 22、群馬 7、埼玉 152、千葉 120、東京 261、神奈川 195、山梨 7、長野 35、新潟 40、富山 6、石川 10、福井 5、岐阜 20、静岡 30、愛知 159、三重 28、滋賀 62、京都 87、大阪 111、兵庫 64、奈良 24、和歌山 17、鳥取 15、島根 7、岡山 39、広島 22、山口 10、徳島 9、香川 24、愛媛 8、高知 5、福岡 38、佐賀 5、長崎 9、熊本 7、大分 4、宮崎 1、鹿児島 7、沖縄 13、海外 0名

会員作品：30名 49枚

企画展示「ヤングアイ」 公益社団法人日本写真家協会 会長賞：日本大学 芸術学部 写真学科 ヤングアイ奨励賞：学校法人Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校・大阪

ヤングアイ参加校：11校 東京工芸大学 芸術学部 写真学科、大阪芸術大学 写真学科、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科、学校法人 日本写真映像専門学校、日本大学芸術学部 写真学科、名古屋ビジュアルアーツ、現代写真研究所、東京総合写真専門学校、日本写真芸術専門学校、九州産業大学 芸術学部、学校法人 Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校・大阪

展覧会については、東京、名古屋、関西ともコロナ禍により2021年に開催を延期した。

(2) 「2020年新入会員展－私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月9日(木)～15日(水)	アイデムフォトギャラリー「シリウス」 オープニングパーティーは中止	542名	展示33名66枚
8月28日(金)～9月3日(木)	富士フィルムフォトサロン大阪	2,913名	同上

(3) 第14回JPSフォトフォーラム「人と向き合う。」をオンラインで開催した。

コロナ禍により従来の有楽町朝日ホールで11月に開催していた観客を集めてのフォトフォーラムは中止とし、予定していた講師による対談をYouTubeにより配信した。配信日：11月21日より現在も配信中。講師：榎並悦子、白鳥真太郎、渡辺達生、司会：佐々木広人(『アサヒカメラ』元編集長)

(4) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

①収集・保存

令和2年度収集・調査を行った写真家と原板資料受け入れ状況は、8名、12,240本となった。

撮影者・団体名	受入日(初回)	受入本数		内容
		初期調査未	初期調査済	
西川孟	2020年3月12日	8,729	—	日本の歴史的な建築物や工芸品等
岡村崔	6月29日	—	1,556	イタリア、ギリシャの歴史的建造物
佐伯義勝	7月16日	—	13	1959年伊勢湾台風被災状況
杵島隆	8月3日	—	194	写真集『義経千本桜』歌舞伎、文楽
芸艸堂	8月13日	—	391	『東洋花鳥写真集』動之巻第19輯等
渋谷高弘	10月19日	—	618	昭和30年前後の東京などの都市
清宮由美子	11月24日	—	735	1950～60年の東京や1970年前後のヨーロッパ
山崎美喜男	2021年2月5日	—	4	1951年に市川市八幡神社で行われた農具市
合計8名		8,729	3,511	

相模原分館フィルム保存庫への写真原板入庫内容と入庫数は、渡辺義雄(2,237)、秋山忠右(1,697)、岩波写真文庫(4,910)、奈良六大寺大観(10,207)、山口直(174)、片山撰三(2,022)で合計6名21,247数。

②2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数12社1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(一社)日本写真著作権協会。

(5) 2020年に協会が創立70周年を迎えるに当たり、創立記念写真展「日本の現代写真 1985-2015」の開催と同名写真集の出版を行った。写真展は2021年3月20日より4月25日まで東京都写真美術館で開催。

(6) 企画展「愛しい」を開催した。会員出展者19人。ニコンプラザ東京 THE GALLERY、2021年2月2日(火)～8日(月)、入場者1,442名。ニコンプラザ大阪 THE GALLERY、2021年3月11日(木)～17日(水)、入場者744名。

公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

- (1) 著作権に関する研究会、セミナーはコロナ禍により開催を見送った。
- (2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。
- (3) 各種著作権契約に関する研究をした。オンライン勉強会「授業目的公衆送信補償金」を2回開催。①2月25日、講師：野方英樹（一社・授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)理事・事務局長）②3月15日、講師：瀬尾太一（一社・日本写真著作権協会(JPCA)常務理事）。
- (4) 著作権の情報収集と公表を行った。
- (5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」は面接を中止。すべてメールによる相談で回答数21件。
- (6) 会報著作権研究 連載49「写真の公衆送信の基本を考える」久保田裕（一社・コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS)専務理事）。連載50「授業目的公衆送信補償金制度と写真」野方英樹（一社・授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)理事・事務局長）
- (7) SNSにおける利用規約を調査し著作権の問題点の研究を行った。
- (8) 日本写真著作権協会(JPCA)との写真著作権に関わる事業協力をした。

公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年2回、174、175号の2冊を発行した。174号・フォーカス「新型コロナウイルスが与えた写真界への影響」、Telescope「創立70周年を迎えて『JPSと私』」、座談会1「創立70周年記念写真展—表現の変貌をどう捉えたか—」座談会2「写真雑誌の果たしてきた役割とこれから、そして文化」、写真界の変化とコロナ禍による業界への影響を考察した。新連載「写真の散歩道」開始。その他に「世界報道写真コンテスト」大賞受賞者へのインタビュー、著作権解説、協会事業の報告などを伝えた。175号・フォーカスでは「創立70周年記念事業『日本の現代写真 1985-2015』」の紹介。Telescope「新宿・銀座のメーカー系ギャラリーの今」で写真業界の変化を考察。企画展「愛しい」の開催報告、「授業目的公衆送信補償金制度」の解説、協会事業の報告などを伝えた。

(2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。日常の更新、内容の見直しと変更及び修正。協会事業の公開など。

公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第46回「日本写真家協会賞」を、凸版印刷株式会社 印刷博物館に贈り、贈呈式を3月19日(金)、東京都写真美術館ホールで行った。

贈呈理由：「わが国の印刷業界を牽引する代表的な企業である凸版印刷の印刷博物館は、印刷に関わる歴史的資

料の収集展示とその技術を保存継承している。私たちが日常手にする新聞雑誌から活版印刷の原点であるグーテンベルク42行聖書などの貴重な印刷物とそれを製作した機械を展示し、付属する工房『印刷の家』では、印刷体験を通して歴史に触れ、VRシアターで印刷技術の未来を予見することができる。これらにより多くの人に親しまれている博物館の運営に対して」

(2) 新進写真家の発掘と育成を図る目的の、2020年第16回「名取洋之助写真賞」の公募は、新型コロナウイルス感染防止のため、募集から中止した。

(3) 第4回「笹本恒子写真賞」は、新型コロナウイルス感染防止のため、有識者の推薦から中止した。

(4) 「第45回2020JPS展」は新型コロナウイルス感染防止のため、表彰式を中止した。

結果：入賞・入選者総数：251名。一般部門：214名(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選184名)、18歳以下部門：37名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選27名)

入賞者：文部科学大臣賞・柴田ただしげ「神使」(3枚組 カラー)

東京都知事賞・河本花波「パパ、はじめてのおむつ替え」(単 カラー)

金賞・西原洋一郎「休憩時間」(単 モノクロ)

銀賞・松田マキコ「ホーリー祭」(5枚組 カラー)

銀賞・新井 尚「疾駆」(単 モノクロ)

銅賞・安養寺 亨「サンドアート」(3枚組 モノクロ)

銅賞・早瀬きせら「男気」(単 カラー)

銅賞・渡部 和範「旅の楽しみ」(単 カラー)(奨励賞以下略)

18歳以下部門最優秀賞・村田主喜「香港Revolution」(5枚組 カラー)(18歳以下部門 優秀賞以下略)

企画展示「ヤングアイ」：日本写真家協会 会長賞：日本大学 芸術学部 写真学科「ノイズ」利川 萌々・野口 花梨。

ヤングアイ奨励賞：学校法人Adachi学園 ビジュアルアーツ専門学校・大阪「We live in JAPAN.」富上 智帆・朝倉 健・松井 佑奈・石川 歩果・柳ヶ瀬ひかり

公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 新型コロナウイルスの感染拡大防止により従来型の国際交流セミナー、研究会の開催が困難となり、新たに協会ホームページ上で「表現者たち」と題して発表を行った。

第1回 「黒人差別撤廃への序章 伝播する叫び」ロバート・ゲルハート(ニューヨーク市在住写真家)

第2回 「写真を通して日中文化交流を」烏里烏沙(JPS会員)

第3回 「聖なる土地の光を追って 写真家・井津建郎氏」井津建郎(ニューヨーク市在住写真家)

第4回 「写真の可能性を求めて！」ブルース・オズボーン(JPS会員)

(収益事業)

収1事業、書籍、物品の販売事業

(1) 『2020JPS展作品集』を制作し、7月30日に発行した。

(2) ネガカバーなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。

(3) 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業)

他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業

(1) 『JPSニュース』を年6回(No.584~589)発行した。

(2) 『会員名簿2020~2021』増補版を2020年5月に発行した。

(3) 『創立70周年日本写真家協会沿革史 増補版2010-2019』を2021年2月に発行した。

他2事業、祝賀会の事業

(1) 2020年度の会員相互祝賀会は新型コロナウイルスの感染拡大防止により中止した。

他3事業、保険の事業

(1) 2018年度より旧来のJPS団体所得補償保険は加入者減少のため業務休止。2019年度より新たに損害保険ジャパン(株)(引受保険会社)、(株)宏栄(取扱代理店)との協力で、「JPS写真家・休業サポートプラン」の募集を開始している。

事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。